

平成27年度学校評価実施報告書(全日制)

次のとおり学校評価を実施しましたので報告します。

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
<p>《教育課程》 教育実践校「学力向上進学重点」教育実践校としての本校独自の教育活動のあり方を追求し、実践する</p> <p>生徒の興味・関心や意欲に応じた多様な学びの機会を設定し、グローバル人材の育成を期するとともに「学力向上進学重点」教育実践校としての取組の充実を図る。</p>	<p>①生徒の学力を向上させ進路実現を果たすため教育課程のさらなる改善に取り組む。学習指導を中心にすえて「横高スタンダード」を拡充するための取組を進める。特別活動等の充実を図り円滑な教育活動を展開する。</p> <p>②「横高アカデミア」等の本校独自の教育活動を通して、自己探求力・知的探究心・課題解決能力の向上を図る。</p> <p>③グローバルな人材を育成するためのさまざまなプログラムを提供する。</p>	<p>①生徒の進路実現をめざす教育課程をさらに改善し、生徒のニーズに応えることができたか。「横高スタンダード」の拡充ができたか。また、「学力向上進学重点」教育実践校として教育活動の円滑な展開ができたか。</p> <p>②本校独自の教育活動を通して、自己探求・学問探究の姿勢が醸成され、学びへの意欲・関心の高まりが見られたか。</p> <p>③国際交流プログラムへ生徒の参加を促せたか。</p>	<p>①「学力向上進学重点」教育実践校として3年計画に基づいた平成27年度の計画を遂行し、おおむね達成することができた。県教育委員会による学力向上進学重点エントリー校、理数教育推進校の指定(平成27年12月)及び平成28年度スーパーサイエンスハイスクールの申請を通して、それに対応する教育課程の検討を進めた。</p> <p>②生徒の学びへの意欲・関心の高まりについて、専門家の協力を得て客観的なデータにもとづく検証を開始した。</p> <p>③姉妹校の訪問はなかったが、姉妹校以外の海外の高校を対象にSkypeを使った国際交流等の方法を模索した。</p>	<p>①学力向上進学重点エントリー校、理数教育推進校として、学習活動を中心とした教育活動全体の充実を図り、生徒の学力向上に向けた取組をさらに進める必要がある。生徒の科学的リテラシーと国際性を高めることを目的とするスーパーサイエンスハイスクール事業を円滑に展開するため、校内組織の整備や外部研究機関との連携強化などを適切に行う必要がある。すべての教科において科学的思考力及び国際性を育成する授業を展開する。授業時間数確保の観点からすべての教育活動を見直し、改善する必要がある。</p> <p>②集計結果をもとに「横高アカデミア」をはじめとする本校独自の教育活動のさらなる質的向上を図る必要がある。</p> <p>③姉妹校交流を進めるとともに、skypeによる国際交流の運用を進める必要がある。</p>	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習意欲を高める取組を進めている。子どもの努力を支えていきたい。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別クラスの設置、横高スタンダードの取組により「学力向上進学重点」教育実践校としての当初目標に近づいている。取組の成果が出ている。 生徒の思考力・判断力・表現力を高めるため、授業改善をさらに進める必要がある。 「横高アカデミア」の取組は安定した成果を上げている。SSH事業の開始に合わせてさらに進化させるべきである。 	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学力向上進学重点実践研究校の取組については当初の目標に達してはいないものの、成果は上がっている。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> スーパーサイエンスハイスクール及び学力向上進学重点エントリー校、理数教育推進校の指定を受けたことを踏まえ、これまでの取組の充実を図ることをとおしてそれぞれの事業を充実させる。 生徒の学力向上に向け、授業改善を進める。

<p>《生徒指導・生徒支援》 生徒の横須賀高校への帰属意識を高め、本校の伝統を守りさらに発展させる姿勢を持たせる</p> <p>生徒一人ひとりにきめ細かな教育支援を行うことにより豊かな人間性や社会性を備えた健康で活力ある人材の育成を図る。</p>	<p>①すべての教育活動を通して本校生徒としての矜持を持たせ、自主・自律の意識を高めさせる。集団への帰属意識を持たせるとともに、個を大切にすることを醸成する。</p> <p>②生徒とのコミュニケーションを重視し、個に応じた「心とからだの健康づくり」の支援を組織的に行う。専門関係者と連携した健康相談活動や学校支援活動を推進する。</p> <p>③朋友会・ボランティアバンク等の関係団体と協力し、生徒が社会への関わりや自らの進路を考えるとともに社会での果たすべき役割に気づかせる取組を進める。</p> <p>④環境教育の一環として、日々の清掃活動を通して生徒の公共性や環境美化に対する意識を高める。</p>	<p>①本校の伝統を継承しさらに発展させていくため、自らの責任と役割を自覚させる場として学校行事や生徒会活動、部活動を活用できたか。また、社会規範遵守への意識を高めるとともに、学校生活におけるマナーの向上が図れたか。</p> <p>②生徒との面談や日常のコミュニケーションをとり、生徒への適正な教育支援ができたか。また、スクールカウンセラーや教育相談コーディネーターとの連携はできたか。</p> <p>③学外の活動に生徒の参加を促すことができたか。</p> <p>④日々の清掃活動を通して生徒の美化意識の向上は見られたか。また、環境委員による各クラスの取組ができたか。</p>	<p>①体育祭で、実行委員会による主体的な行事運営を推進した。生徒同士の連携・協力が非常によく、横須賀高校生としての連帯感が醸成された。また、陸上競技部が関東大会に、新聞部と室内楽部が全国総合文化祭（滋賀大会）に出場した。</p> <p>②夏季休業を中心に担任と保護者・生徒による三者面談の機会を設け、きめ細かな指導を行った。また、スクールカウンセラーへの相談件数が増え、養護教諭・担任の連携もスムーズに行えた。</p> <p>③教育委員会主催の「主張の会」「生徒保健活動研究発表会」等に地区の代表校として参加し、役割を十分に果たした。また朋友会の協力のもとに校歌祭にも参加できた。部活動環境整備のために朋友会から散水機が寄贈されたこと等を生徒に伝え、活動の支援者に対する意識を高めさせた。</p> <p>④加湿器やクリーナー置きなどの設置、ストーブの撤去などにより、教室の環境は改善され、清掃活動もやり易くなった。</p>	<p>①体育祭についてのアンケートでは外来者からの評価も高く、生徒の満足度も高かった。良き伝統を継承し、次年度の文化祭、さらに再来年の体育祭につなげて行く。</p> <p>また、全国大会・関東大会等に出場した部活動・生徒の活躍を称え、他の部活動の活性化に繋げる。</p> <p>②生徒一人ひとりの状況に合わせた教育支援を行う。</p> <p>スクールカウンセラーとの連携を強め、生徒を支援する体制の整備をさらに進める。来年度は更に充実させる。</p> <p>③生徒会役員をはじめ、各部の部員が、学校外での活動に積極的に参加した。県教育委員会が開催する高校生版教育委員会の高校生教育委員に1学年生徒が選ばれるなど活躍の場も広がっている。さらに生徒の学外の活動への積極的な参加を促す必要がある。</p> <p>生徒一人ひとりが、社会の中で果たすべき自分の役割に気づくような指導を継続する必要がある。</p> <p>④教室の環境は少しずつ改善されているが、私物の管理など、生徒の環境美化意識は高いとはいえない。教室環境の整備を進めると同時に、清掃活動を通して生徒の美化意識を更に向上させる必要がある。</p>	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育祭では子どもたちが協力しながら工夫を重ねていた。よい体育祭を作り上げようという意識が表れていた。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事に熱心に取り組むことで生徒は自主性・積極性を伸ばしている。 ・生徒はよく考えて、自身をもって行動している。 ・スクールカウンセラーを活用して、生徒を支援する体制の強化を図ってほしい。 ・朋友会(同窓会)はさまざまな学校の教育環境整備に協力しているが、有効に活用されていることは喜ばしい。卒業生の力を活用した仕事ナビの開催など、母校を支援する機運も高まっているので、さらに関係を強めたい。 	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの結果から多くの生徒が学校生活に満足していることがうかがえる。 ・生徒が主体的に学校行事や部活動に取り組んでいる。生徒の自主性や創造性を伸ばさせる指導を継続する。また、校外の活動への積極的な参加を促す。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や部活動においても生徒が自ら考え、他と協力しながら活動を作り上げていくような指導を展開する。 ・生徒の身体的、精神的な健康を維持するため、面談等の機会を有効活用するとともに、支援体制の充実を図る。
---	--	--	--	---	---	--

<p>《学習指導・授業改善》 教育実践校「学力向上進学重点」として生徒の第一志望への進路実現に向け授業力向上に努める</p> <p>生徒の学習への主体的な取組を促すとともに、学力の深化と向上を図るため授業力向上を推進する。</p>	<p>①授業力向上に向けて「生徒による授業評価」を有効活用し、全教職員による研究協議会等を開催する。</p> <p>②自学自習の姿勢の育成と学力向上を目指し、長期休業中や休日の講習等の各企画を組織的に計画・遂行する。講習等は生徒のニーズにあった内容・レベルに設定する。</p> <p>③今年度初めて設定した難関大学を目指す生徒を集めた3学年の「特別クラス」が、該当クラスだけでなく学年、学校全体に良い影響を与えられるように運営する。</p> <p>④模擬試験の結果のデータ分析を行い、その後の教科指導・進路指導に関する内容・方針決定に資する。また、生徒保護者との情報の共有を図り、進路指導の効果を高める。</p> <p>⑤生徒の学力向上のため、より精度の高い試験問題の作成と検証を行う。</p>	<p>①研究会や研修会を授業改善に結びつけることができたか。</p> <p>②学力向上に向けた組織的な取組はできたか。また、生徒のニーズにあった内容により目的を十分に果たすことができたか。</p> <p>③「特別クラス」が生徒の第一志望の進路実現に結びついたか。当初の目的に沿った運営ができたか。</p> <p>④模擬試験の結果分析をその後の指導にいかすことができたか。生徒・保護者との情報の共有化により、有効な進路指導が実現できたか。</p> <p>⑤生徒の思考力・判断力・表現力の向上につながる試験問題が作成できたか。</p>	<p>①生徒による授業評価の結果を踏まえて、教科ごとに研究授業・授業研究会を実施した。</p> <p>②サマーセミナー、ウィンターセミナーの勉強合宿に、それぞれ34名、38名の生徒の参加があった。授業の補習的な内容の講座から難関大学に的を絞った大学入試講座までの幅広い講座を開講した。また、夏期講習においては、生徒の受講希望が活かせるよう、講習と部活動合宿とのスケジュール調整を行った。</p> <p>③難関大学を目指す生徒を集めた「特別クラス」の生徒は高い志望を持ち続けるとともに、学習意欲も非常に高く、該当クラスだけでなく学年、学校全体に良い影響を与えた。</p> <p>④3年間の詳細な進路指導計画のもとに生徒向けの模擬試験の解説および分析会を実施した。6月、1月に保護者説明会を開催し、模擬試験データの見方や最新の大学入試状況などの情報を提供し共有化がはかれた。また、模擬試験データを「出願指導」に活用した。</p> <p>⑤テスト問題の共通化をすすめる、生徒の思考力・判断力をはかる問題の作成に努めた。</p>	<p>①基礎的・基本的な知識を習得し、生徒の思考力・判断力・表現力を高め、進んで学習する姿勢を育成する授業づくりをさらに進める。</p> <p>科学的思考力の育成を図る横須賀高校版アクティブラーニングの方策を検討する。</p> <p>②サマーセミナー・ウィンターセミナー・土曜講習・夏期講習は好評であったが、授業と各種講習を結び付けた展開を考える必要がある。各講習において、大学別の講座を設置するなど受講生徒のニーズに合った講座をより多く設定するなど、さらに多くの生徒の参加を促す工夫をする必要がある。</p> <p>③文系の「特別クラス」希望者を増やすため、入学時からさまざまな場面で「特別クラス」について生徒・保護者に周知し、意識を高める必要がある。</p> <p>④模試解説、面談、保護者説明会を通して、1年次から志望校を高く設定することの大切さを伝えるとともに、高い目標を下げさせないようにするため進路指導の工夫が必要である。</p> <p>⑤これからの社会で求められる学力を視野に入れ、生徒の学力向上に向けた試験問題づくりに係る研究をさらに進める。生徒の進路希望を実現するため、定期テストのあり方（実施日数、試験時間、科目数、出題内容）を大きく変更する。</p>	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> 土曜講習実施時に部活動を制限するなど学習に向かえるような配慮がある。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業評価の結果はおおむね良好であり授業改善の取組も進めているが、生徒の学力向上に向けてさらなる改善の努力を望む。 生徒の意識を高める工夫が見られる。土曜講習や夏・冬のセミナーを行うなど具体的な学習支援を進路指導に結び付けて行っている。 特別クラスの取組が成果を上げている。学年全体が学習に真剣に取り組むなどよい影響を与えている。 	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 横高スタンダードの策定が複数の教科に広がり、授業改善につながった。 特別クラスの設置は学年全体の学習意欲を向上させることにつながった。 特別講習などによる生徒の学習支援体制が定着し、効果を上げている。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員が相互に協力する体制の下、授業力向上の取組を継続する。 特別クラスに係る生徒・保護者の理解を深め、取組を推進する。 進路資料を分析、活用して情報の共有を図り、進路指導の充実に努める。
---	---	---	--	--	---	---

<p>《キャリア教育》 〈自己探求〉をすすめる(自己実現)を図る グローバル社会で活躍する人材を育成するために自己を見つめ将来を真摯に考える姿勢を持たせるとともに探究的な学びを重視したキャリア教育を推進する。</p>	<p>① 大学入試を意識し3年間を見据えた進路指導計画をさらに改善するとともに、職員の進路指導のスキルと指導力の向上を図る。</p> <p>② 「総合的な学習の時間」をはじめとする教育活動で生徒のキャリア意識を高める。</p> <p>③ 〈自己探求〉を進める本校独自の教育システム「横高アカデミア」等のプログラムをさらに充実したものにす。</p>	<p>① 3年間を見据えた進路指導計画をさらに改善できたか。職員の進路指導のスキルと指導力の向上が図れたか。</p> <p>② キャリア意識向上に向けて生徒が意欲的に取り組んだか。また「横高仕事ナビ」等に多くの生徒の参加を促せたか。</p> <p>③ 「横高アカデミア」や新入生宿泊研修等、〈自己探求〉プログラムにさまざまな工夫を加えられたか。効果があったか。</p>	<p>① 職員の進路指導のスキルと指導力の向上のため、2年生3学期(3年0学期)からの詳細な進路指導計画を作成し、取組を開始した。サポートティーチャーの活用や朋友会の支援をうけて進路指導環境の充実を図り、生徒の利用件数が大きく増加した。</p> <p>② 外部講師による講演会を開催し、進路や国際社会等について考える機会を作った。</p> <p>③ 「横高アカデミア」については、講師との密な連携方法に工夫を加えた。「新入生宿泊研修」で、進学重点校の目標に沿った「キャリア教育」のプログラムを設置した。</p> <p>④ グローバル人材の育成を目指し、課題解決能力をみるために、入学者選抜において特色検査を導入した、受検生の教科横断的な力をみたが、その目的はほぼ達成できた。</p> <p>⑤ 生徒の進路指導に関して第一希望実現を目標に取り組んできたが、生徒の意識も「入れる大学から入りたい大学」への変わってきた。難関国公立大学や医学部、難関私大を目指す生徒が多くなり、進路実績も確実によくなってきた。</p>	<p>① 3年間を見据えた進路指導計画をさらに改善し、入学から卒業までの詳細なものにすることで、入学当初から生徒に大学入試を意識させる。生徒が主体的に進路について学べるような進路学習環境の整備をさらに進める。</p> <p>② キャリア意識向上のため生徒が主体的に学習に取り組むように指導を進める必要がある。</p> <p>③ 前年の実施状況を検証し、確実に新たな工夫を加えていくことが重要である。</p> <p>④ 特色検査によって把握できた入学生徒の理解力・思考力・表現力を高めるため、入学後の学習指導に有効に生かしていく。特色検査のさらなる質的向上に努めたい。</p> <p>⑤ 生徒の進路指導に関しての第一希望実現という方向性は今後も継続していくが、難関国公立大学や医学部、難関私大進学を目標に設定し、妥協しない自己実現を果たさせることで、高いレベルでの進路実績をあげていく。</p>	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校で自習をしている生徒が増えてきている。自習室や入試過去問題の充実など学習を支援する環境が整ってきている。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の第一志望実現に向けて組織的に進路指導を行っており、成果も上がっている。将来を見据えた指導を継続してほしい。 本年度から特色検査を導入しているが、生徒の総合的な力を測ることができるよう工夫をしてほしい。 オーストラリアの姉妹校の訪問はなかったが、国際理解の取組は進めている。今後も継続して取り組んでほしい。 	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 3年間を見通した進路指導計画にもとづいた指導により生徒の進路に対する意識を高めることができた。希望進路の実現につながった。 横高アカデミアのプログラムは生徒の学問に対する興味関心を高めることにつながっている。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員の指導スキルを高めるため、データを活用して現状を分析をし、適切な指導が出来るようにする。 新入生宿泊研修や横高アカデミアの取組をさらに進めることを通して、生徒の学問に対する意識を高めキャリア意識の情勢を図る。
--	---	--	---	--	--	--

<p>《地域等連携》 地域を代表する伝統校である本校に対する県民の教育ニーズに応える学校づくりを行う 本校の教育活動を積極的に情報発信することにより保護者や中学校、地域等との連携を深め、信頼される学校づくりをめざす。</p>	<p>①保護者や同窓会などの関係団体及び地域の意見や要望の集約・分析に積極的に取り組み、信頼されニーズに的確に応える学校づくりを推進する。</p> <p>②学校の特色や様々な教育活動の実践を地域に発信するために、中学生と保護者ならびに中学校教育関係者を対象とした質の高い学校説明会や体験授業などを実施するとともに、常に誠意をもって対応する。</p>	<p>①情報交換や県民のニーズを掌握する場を設定し、信頼される学校づくりを進めることができたか。</p> <p>②HPによる様々な情報の発信、学校案内の記載情報の精選、学校説明会の内容の充実など、広報活動をより効果的に推進できたか。また、学校説明会、体験授業、体験部活動、学校へ行こう週間など一連の広報活動をより機能的に実施することで、参加者の人数増と満足度の向上を図れたか。</p>	<p>①HPで学校の行事や説明会についての情報を発信した。また、「特色検査」説明会や「学校へ行こう週間」などの出席者を対象として校内見学会を行い、本校の特色などを紹介するとともに、率直な意見や要望の収集に努めた。</p> <p>②2回の学校説明会、体験授業や体験部活動及び個々の学校見学まで、誠意ある対応を心がけた。学校説明会ではアンケート回答をもとにより良い形で実施することを心がけた。</p> <p>①②2回の学校説明会で約1400名の参加者、また体験授業・部活動で300名の参加者があった。アンケートも概ね「満足」の結果を得ることができた。特に校長の教育方針に則り、しっかりした学習活動あつての高校生活の充実を謳った。ぎんなん祭りや環境美化活動などの地域イベントに多くの生徒が参加した。ラグビー部の春光学園訪問や本校生徒の関わる演劇のイベントの実績が報道された。公郷町内会の老人会イベントや避難訓練等を地域と協力しながら実施した。</p>	<p>①HPをより充実させ、的確な情報発信にさらに努める必要がある。</p> <p>②例年より遅い時期まで学校見学希望者がいたが、丁寧に対応した。今後も1月の見学希望者は増える傾向にあると思われるが、適切に対応できるよう準備をする。</p> <p>①②新年度からの学校の新しい取組をしっかりと地域や中学校、中学生とその保護者に対して発信していく。また、地域のイベントや活動に参加する生徒の増加に努めることにより、地域と協力し連携を強めていく必要がある。</p>	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のイベントに生徒が参加したり、施設を訪問したりするなど積極的に活動している。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会やHPなどにより学校からの情報提供を行っている。次年度から始まる新たな教育活動の取組についての情報を的確に発表していく必要がある。 ・地域と連携したこれまでの取組を継続するとともに、さらに深めて欲しい。 	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの生徒が地域の清掃活動やイベント等に積極的に参加した。地域との連携しながら教育活動を展開できた。 ・平成28年度入学者選抜からの特色検査の導入に伴って学校説明会の開催回数を増やし、丁寧に説明した。多くの参加があった。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新年度からの新たな教育活動についてこまめに情報発信をする。 ・アンケート結果に基づき学校説明会をよりよいものにする。
---	--	--	--	--	--	--

<p>《学校運営・学校管理》 学校運営の効率的改善と安全で安心な教育環境の整備に努める</p> <p>事故・不祥事防止及び防災意識の向上を図る取組を進め、信頼される学校づくりをめざす。</p>	<p>①法令遵守と人権尊重に根ざす適切な業務遂行に向けての研修を行い、事故・不祥事を未然に防止する。</p> <p>②職員の防災に対する意識を高めるとともに、災害時を想定した具体的な対応の確認等、組織的な取組を進める。</p>	<p>①組織的な取組により事故・不祥事を起こさない体制づくりはできたか。</p> <p>②防災対応マニュアルに基づき、災害時に対応すべき職員の役割を確認できたか。また、災害時に必要な備品等の確認ができたか。</p>	<p>①人権研修会（8月実施）及び事故防止研修会（1月実施）を開催し事故防止の意識啓発を図った。マニュアルを改訂し、各学期のテスト作成や成績処理等に係る事故防止に努めた。</p> <p>②実際の災害発生を想定し、生徒の緊急時帰宅カードの作り直しを行うとともに、全職員で防災対応マニュアルを確認した。</p>	<p>①入学者選抜における事故に関しては、その原因を究明し次年度への教訓と改善に繋げる必要がある。職員研修のさらなる充実により、事故・不祥事の未然防止の意識を高めるなど、今後は実効力のある取組をする必要がある。</p> <p>②防災対応マニュアルについては職員の役割分担を確認できたが、災害発生時のシュミレーションと防災備品が十分とは言えないのでこれらの充実が今後の検討課題である。</p>	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分たちの学習環境を保つ意味で、校内美化の取組を進めてほしい。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 入学者選抜の事故について真摯に受け止め、未然防止についての努力を継続する必要がある。 	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 入学者選抜における事故を真摯に受け止めて改善を図る。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 事故不祥事の未然防止に向けて効果的な研修を行う。
--	---	---	---	---	--	--